

# 詩歌に見る風のいろいろ(上)

元国語科教諭 澤田 陸雄



風蕭蕭として 易水寒し 壯士ひとたび去つて また還らず 同じ蟬の声を聞いても、ただ、うるさい、暑苦しいと聞く人と、これに無量の想いを馳せて、詩に歌う人もある。これは人の持つ感性の問題でもあろうし、人の経てきた生い立ちともかかわってくる。一般的に言えば春蟬から始まって二

イニイ蟬、そして夏を謳歌するかの如きたくましいもろもろの蟬達、それもほうらぬ秋の訪れを感じ、はかなさを覚えるのが一般だろう。それに人々ほどのような思いをいだいているか大いに聞きたいところであるが、それを論ずる人は案外少ない。風の音もさかりで、これも聞く人によってその感じ方は大いに異なる。これも感性の問題、その人その人の性情あるいは生い立ちとかわつてくる。決して同じであるはずがない。大風も場合には吠えるがごと

く、場合には泣くがごとく、笑うがごとく、地をゆるがすがごとくである。冒頭の漢詩は西暦前二百年ごろの、中国の衛の人荊軻(けいか)の作である。荊軻は燕の国の太子丹の命を受けて、始皇帝を誅するべく秦をめざし、始皇帝に近づいたが、帝の察知するところとなり殺された。その荊軻が易水(易とよぶ川)のほとりて壮途につこうとした折の自身の詩である。男(お)の児の気概ここに極まんとする心情の詩である。衛を思い燕を思いついには中国全土を安泰ならしめようという気に燃

えた詩句である。しかし、結局は強秦のために全て併呑されてしまう。それにしても、これより死地に赴こうとする荊軻の心境を歌いあげてあまりあるこの詩のすこみはなかなか言葉では形容できない。とりわけ悲壮味を感じさせるのは蕭蕭の二字である。これは易水という大河を前に劇的な命のいとなみをあらわした語でもある。それは颯々でもない、烈烈でもない。それは言いようによって限りなく寂しい。しかし、それはこの場合限りなく魂の鎮静を思わせる。のち千年もして、唐代の

駱賓玉という詩人が易水のほとりに立って「昔時人すでに没し、今日水なほ寒し」と詠んでいる。「人」とは荊軻のことだ。この歴史的に有名な易水をとらえて「易水にねぶか流るる寒さかな」と詠じた俳人がいる。ねぶかとはいわねぎのことで、これが冬の季語となつている。この大河にねぶかを流してどうするのだ、と言いたい。この貧相な想像力にはあきれほかない。易水を大河と言つたが、大陸では必ずしも大河の類に入らない。しかし、日本では類を見ないほど大きいのである。これが蕪村の有名な句とされているのだから、なんと評するべきか。

昔の書に「松吹く風蕭蕭たり」という言葉がある。この松吹く風は古来長い間日本人に言うに言えない思いを抱かせてきた。それをあらわす単語の多いことでも知られる。つまり、松風(まつかぜ)、しょうふう、松籟(しょうらい)、松韻、松濤(しょうたう)とは針葉樹全般が発する音をそう呼んだ。白秋に、この山は たださうさうと 音すなり 松に松の風 椎に椎の風 というのがある。この「松の風」というのも針葉樹をわたる風の音である。椎の「風」とは広葉樹をわたる風の音である。

江戶時代の土田秋成は国学者として知られているが、その秋成の「春雨物語」の中に、「青頭巾」というのがある。いささか不気味であるがその大筋を引く。快庵というある高僧が旅の途次山中の廃れきった寺に一夜の宿をとった。その深更その寺の僧の非道の極に随した姿を見る。翌朝、その僧に一条の偈(げ)を授けて去る。それは

平成18年度校友会収支報告書

自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日 (単位 円)

科目	収入	支出	摘要
前期繰越金	34,267,238		
名簿収入	21,000		@3,000×7冊
会費収入	4,400,000		@20,000×220名
預金利息	17,287		
印刷費		214,357	クローバー及び会報
弔慰費		10,000	
会議費		222,380	
通信費		524,665	
行事費		338,440	
人件費		257,245	
消耗品費		296,543	
雑費		2,150	
次期繰越金		36,839,745	
合計	38,705,525	38,705,525	

校友会行事費関係収支報告書

平成19年3月31日 (単位 円)

科目	収入	支出	摘要
会費収入	170,000		@2,000×85名
本会計より	257,245		
行事費		427,245	
合計	427,245	427,245	

平成18年4月29日(出修道院ガーデンにて「第18回卒業生の集い」を行いました。上記の通りご報告致します。平成19年3月31日 聖光学院校友会会長 石原 義一

要な役割を果たしているのもうなづける。ところが世の中が開発されて、ちまたの松はむやみに伐られて、そこに道路や海水浴場ができて、「松風」や「松籟」は人々の身辺から追いやられ、単なる標記として残された感がある。

無論 湖岸や海岸にそれをとどめている場合があるが、肝心の人の心がそれに応じない、つまり感応することなくなつた。

江月照らし松風(しょうふう)吹く。永夜清宵何の所為(しょうい)ぞ。 というのである。それを見事に解けとて庭に座をうせ、青い頭巾をかぶせて去る。一年たつてそこをたまたまよぎることがあったら

川面を照らす月、「所為」は因果、あるいは天意とでも解けば良いだろうか。さてこの場合の「松風」はきわめて霊的で、次元の違うものを感ぜさせる。一方では幽明の境を感じさせる。(以下次号に続く)

立校は、いつまでも変わらぬ先生の姿があり、卒業生の世代を超え、共通の話題に事欠きません。私は、この世代を超えた聖光学院卒業生の輪が無限に広がっていきけるよう少しでもお役に立てればと思っております。

最後に、前述した「特典」ですが、この校友会報をお持ちいただいた方には、お車の維持管理には絶対にかかせないエンジンオイルを無料でお交換させていただきます。親子二代にわたり卒業生です。どの世代の卒業生が弊社にいらしても、当時の先生方などの思い出話に華が咲くことでは

う。ご来店を心よりお待ちしております。申し上げておきます。(住所) 横浜市南区永田南一四一〇 (電話) 〇四五七四一

編集後記 今回の校友会報は以下の広報委員会中心に作成編集しました。委員長 石原 義一(3期) 委員 茅野 誠(9期) 委員 中島 秀和(11期) 委員 伏見 靖(20期) 委員 榎田 恭平(27期) 委員 澤田 光生(27期) 委員 加賀美博之(31期)

在の聖光の動きを知ることができたが、その代わりにこの校友会報に在校生の活動の一部紹介するなどしてはどうかという案も広報委員会では検討を始めています。広報委員会を活性化するための契機ともなるので次回以降の広報委員会で検討を続けたい。 また、今回はタイミングが合わず実施できなかったが、シリーズの「卒業生のお店紹介」については広報委員会が積極的に卒業生のお店を訪問して取材すること、次回の課題として検討したいので各種の情報についての提供をお願いしたい。

## シリーズ 第15回

# 卒業生のお店紹介



三期の加賀美博之です。私は、大学卒業後、横浜市役所を経て、三年前から現在の会社で働いております。この「卒業生のお店紹介」シリーズでは、毎回、分野で大活躍されている人生

の先輩方が登場されており、まず、弊社紹介に入ります。聖光学院創立五十周年、誠にありがとうございます。聖光学院の評判も年々高まっているように、卒業生と

してうれしい限りです。また、五十年目にして、ライバルである大船の某高校を東大実績で初めて抜いたところで、これから円熟期に入っていく聖光学院を卒業生として応援していきたいと思っております。

大正期に横浜野毛にて自転車屋として店を構え、途中、高度成長期に自動車屋へと転換し、場所を今の南区に移し、現在に至っております。弊社では、横浜市南区にある自動車の販売・整備・保険などを中心に営む会社です。

装も行ってあります。本社の所在地は、京急弘明寺駅と井土ヶ谷駅の中間に位置しています。京急急行で弘明寺と井土ヶ谷間を走行している際にトンネル手前で目を横向けると、赤紫色のちよと浮いた感じ(?)の建物が見えるのがそれです。

また、支店として、京急井土ヶ谷駅から鎌倉街道にぶつかるT字路(南区通町)に中古車展示の立体駐車場が目印の営業所がひとつあります。弊社を知る人の中

には、こちらのほうが目立つのか、こちらが本社と勘違いされる人が多く、肝心な本社のほうが景色は浮いているけど目立たないという矛盾に苦しんでいる次第です。弊社では、地域のお客様にとつての「車の主治医」となるよう、地元横浜に根付いたフットワークと親身なサービスを基本にがんばっております。

緊急時の事故・故障時の対応はもちろん、お客様の要望があればすぐに引取り・納車に伺い、時には簡単な作業ならば現地に駆けつけ作業を実施するなど、他店にはないフットワークを売りにしております。

冒頭の見出しに、二人の卒業生の名前が書いてありますが、私の父親も聖光学院の卒業生で、加賀美家はみな、横浜という街で生ま

## (株)加賀美自動車

六期生 加賀美 通昭  
三期生 加賀美 博之



また、今回はタイミングが合わず実施できなかったが、シリーズの「卒業生のお店紹介」については広報委員会が積極的に卒業生のお店を訪問して取材すること、次回の課題として検討したいので各種の情報についての提供をお願いしたい。

また、今回はタイミングが合わず実施できなかったが、シリーズの「卒業生のお店紹介」については広報委員会が積極的に卒業生のお店を訪問して取材すること、次回の課題として検討したいので各種の情報についての提供をお願いしたい。

また、今回はタイミングが合わず実施できなかったが、シリーズの「卒業生のお店紹介」については広報委員会が積極的に卒業生のお店を訪問して取材すること、次回の課題として検討したいので各種の情報についての提供をお願いしたい。

また、今回はタイミングが合わず実施できなかったが、シリーズの「卒業生のお店紹介」については広報委員会が積極的に卒業生のお店を訪問して取材すること、次回の課題として検討したいので各種の情報についての提供をお願いしたい。

また、今回はタイミングが合わず実施できなかったが、シリーズの「卒業生のお店紹介」については広報委員会が積極的に卒業生のお店を訪問して取材すること、次回の課題として検討したいので各種の情報についての提供をお願いしたい。